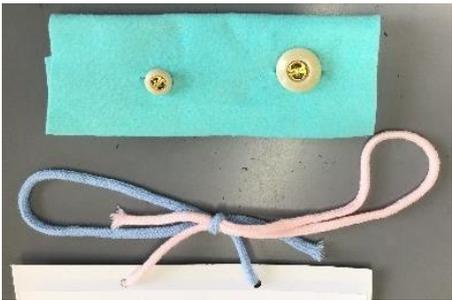
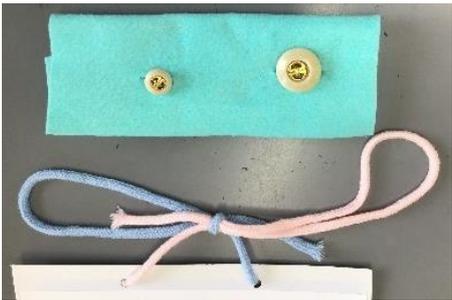
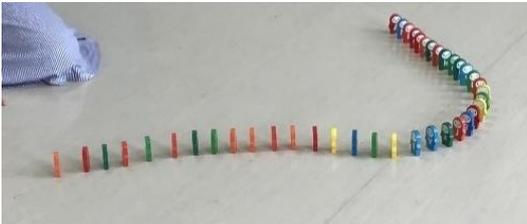


特別支援学級 実践事例

校種(学級の種別)	小学校(知的障がい特別支援学級)	本事例の教科等名	自立活動
<p>在籍児童生徒の実態</p>	<p>○つまむなどの細かい作業が苦手 ○鉄棒、縄跳び、ボール操作、マット運動など体を動かしたり回転したりすることが苦手 ○見たり聞いたりして情報を理解することが苦手 ○点つなぎ等の、どこからどこまでか、どこに着目するのかを把握するのが苦手 ○集中力がある程度で切れる ○相手の気持ちを察するのが苦手</p>	<p>目標・指導内容</p>	<p>5身体の動き (5)作業に必要な基本動作を習得し、その巧緻性や持続性の向上を図る。 ボタン、蝶結び、ビーズ通し、折り紙、ドミノ、マット、ボール操作、(点つなぎ、色板、)裁縫</p>
<p>指導の経過・工夫点・子どもの変容</p>	<p>○ボタンかけやビーズ通し、蝶結びなど指先を使う活動を行った。</p> <p>①ビーズで髪飾り用のゴムや腕輪を作った。最初のビーズはキャンディ型でつまみやすかったが、2回目からは丸いビーズ(右写真)にした。3作品目でゴムの最後の処理(固結び)ができるようになった。さらに小さい青や白のビーズにしたり、色の順を指定したりして挑戦させた。小さいビーズは最初、つまみあげること苦勞していた。少しずつではあるが、つまみあげたり指で回して穴を探したりすることができつつある。</p> <p>②ボタンかけ(右写真上)はすぐにできるようになった。蝶結び(右写真下)は左右で紐の色を変えて取り組ませた。赤で頭を作り、青で首を巻いて、お腹から紐をとる、というように体の部位をイメージして練習させた。(写真は、フックにかけるための蝶結び。最初はよくほどけていたが、だんだんとほどけなくなってきた)</p> <p>③折り紙を折って、飾りや掲示物を作った。(下・右写真) 「半分に折るときは角をピッタリ合わせる」など、どこに着目して折り目をつけるのか「4環境の把握」とも関連付けて行った。</p> <p>○指先を使いながら、集中して取り組めるドミノを行った(下写真)。 最初は作業しやすい机の上で行った。倒してしまっても笑いが起き、楽しそうに取り組んでいた。2回目からは机の上だけでは狭くなり、床に作り始めた。正座して前かがみになっているので難易度は上がっているが、長い時間、集中して取り組めた。4回目では、ベルを最後にセットするよう自分で工夫していた。ベルが鳴ることでご褒美のように感じているようだった。</p>	     	

○ボール遊びやマット運動など、体幹や回転に関わる運動を行った(右写真)。

初めてバランスボールを見た時は、叩いたり転がしたり、二人で運んだりして遊んだ。2回目で机につかまりながら座ったり、少し弾んだりした。3回目からは他の友だちをまねて、お腹で乗ってみたり片手を外して座ってみたりしていた。何度か取り組む中で、「先生、数えて」と手を放して乗るようになった。教師の唱える数が増えていくと、記録が伸びるのが嬉しいようで、何回も挑戦していた。

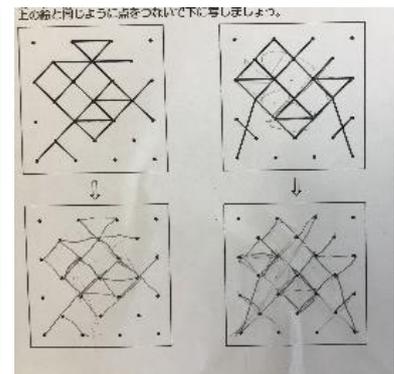
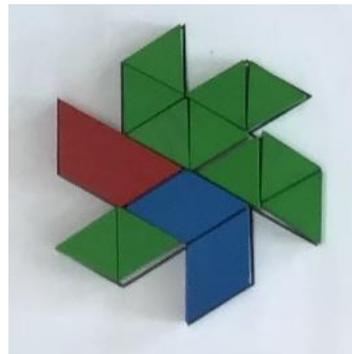


キャンディーボールを使ってのボールつきは上手にできた。「あんたがたどこさ」は何度も見本を見たり練習したりしたが、足を反対回しにあげてしまい、うまくいかなかった。

マット運動では、卵やゴボウになりきって、揺れたり回転したりした。揺れや回転が無いマットキャタピラーは好きでどんどん取り組んだが、ゴボウは抵抗を示していた。

○色板や点つなぎをした(右写真)。

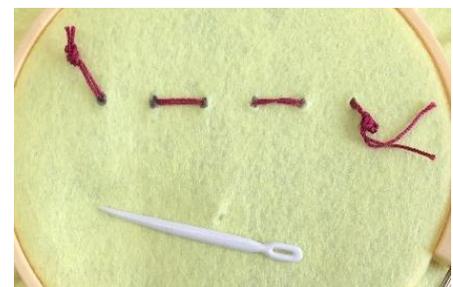
③での「4環境の把握」と関わって、どこに着目するのかが苦手だったため、取り入れた。色板は枠だけ印刷し、そこにどの形の色板を埋めると完成するか自由に考えさせた。「ひっ



くり返すとはまる」という発想が難しいようで、いつも一番小さい色板で解決を図ろうとしていた。点つなぎは「コグトレ」を取り入れた。プリントをもらってすぐ「無理」と言いつつも、何番目なのかを数えて確かめながら取り組んでいた。

○裁縫の前準備の活動を行った(右写真)。

最初にフェルト生地で作ったはさみのカバーを見せて、興味を持たせた。縫い針に似た形状の紐通し、編み物用の糸、フェルトを準備した。1回目は玉結びをした。指でよるのが難しかったため、玉止めのようにすることでできるようになった。2回目は、フェルトに刺し、玉止めをした(担任がそれを使ってイチゴのかざりを作った)。3・4回目はあらかじめペンでつけた印に、紐通しを出し入れすることで波縫いの要領をつかませた。5回目に本物の縫い針と糸を使用した。細く短く手に刺さる本物の針にかえると、つまみにくく、操作しづらいようだった。糸も細く、糸切りバサミの操作も必要だった。思ったより時間がかかり、フェルトで小物を作る期間と交流学級で家庭科の裁縫を学習する時期が重なってしまったが、交流学級での裁縫は自信をもって取り組めた。



成果と課題・今後の方向

○苦手だと思っていた細かい作業の「できた」を重ねたことで自信をつけていったことが一番の成果である。ビーズや折り紙の飾り等、かわいい作品が集まったことも本人にはうれしいことのようにだった。同じ支援学級の友だちや支援員さんに「プレゼントする」と言って休み時間にも一人で作っていた。

○今後は、場所や形の認知に関する活動や回転などの運動を取り入れていきたい。また、縄跳びやフラフープなどの操作が必要な活動も取り入れていきたい。